

令和5年11月2日  
道路局 国道・技術課

## 道路行政ニーズを実現するためFS研究・短期研究を1件採択します

- 新道路技術会議において、道路行政ニーズを実現するためFS(フージビリティスタディ)研究・短期研究として1件採択することとしましたのでお知らせします。
- 引き続き、令和5年度のFS研究・短期研究を、継続して募集しています。

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合し、道路政策の質を一層向上させるため、平成16年10月より新道路技術会議(委員長:朝倉 康夫 東京工業大学名誉教授、神戸大学 名誉教授)を設置しています。

令和4年度から道路行政ニーズを実現するためFS研究・短期研究を立ち上げ、毎年募集し年間4回、合計10件程度を採択することとしています。

今回、8月末までに応募のあった2件について新道路技術会議において審議し、別紙の1件を採択することとしました。

※FS研究:本格研究の実施に向けた実行可能性調査として実施するもの

短期研究:短期的に実施可能な小規模な研究開発

<応募の審査時期>

応募	審査	採択
3月~5月	6月	2件
6月~8月	9月	1件(今回)
9月~11月	12月	—
12月~2月	3月	—

<応募要領等>

- FS研究・短期研究 募集要領及び提案様式

(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/shinki/koubo.html>) 国交省 HP

- 道路行政ニーズ

(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>) 国交省 HP

<問い合わせ先>

国土交通省道路局 国道・技術課 舟波、森(内線 37862、37855)

(代表) 03-5253-8111 (直通) 03-5253-8498

## ＜ソフト分野＞

FS/短期	道路行政ニーズ	研究テーマ名	提案概要	研究代表者名
FS	<ul style="list-style-type: none"><li>・交差点の進行方向別交通量を自動で計測する技術</li><li>・歩行者・自動車等の流動の常時計測が簡易に可能となる技術</li><li>・CCTV を活用した交通量観測技術</li><li>・道路交通マネジメントの実践・高度化を可能とする技術</li><li>・ETC2.0 と AI を活用した交通マネジメントサービス</li></ul>	交通 DX によるフェーズレス交通マネジメントについての技術研究開発	本研究は、交通ビッグデータ等の複数のデータを活用して交通状況を把握し、平常時からイベント時、災害時を含む交通マネジメント施策をデジタルツインにて検討する手法を構築する。	名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 山本 俊行

# 技術研究開発の分類

分類	本格研究	FS研究	短期研究
概要	道路行政の現場のニーズや実用化に向けた成果イメージ等を踏まえ、道路政策の質の向上への貢献が期待できる研究を支援	道路行政の現場のニーズや実用化に向けた成果イメージ等を踏まえ、道路政策の質の向上への貢献が期待できる研究を支援	
		本格研究の実施に向けた実行可能性調査として実施するもの	短期的に実施可能な小規模な研究開発
研究規模	500万円程度から最大5,000万円/年	最大300万円/年	
研究期間	最大3年間程度	最大1年間程度	1年間程度/回 (同じテーマで連続 2回まで申請可能)
募集・採択	年1回募集し毎年3月頃に採択を決定 年間5件程度の採択を想定	通年随時募集し年間4回採択を決定 年間10件程度の採択を想定	